



あいさつは魔法の言葉

副校長 諏訪部 浩志

風薫る5月。木々をわたる風も気持ち良く感じられる季節となりました。中庭では鯉のぼりが子供たちの健やかな成長を願い、優雅に泳いでいます。

新学年が始まって1か月。子供たちは新しい環境にも慣れ、充実した毎日を過ごしています。

『あいさつ・姿勢・言葉遣い』、これは、今年度四谷小学校で重点として取り組んでいく3つの柱です。中でも『あいさつ』には4月から全校で取り組んできました。学校生活では、様々な場面であいさつの言葉が交わされます。「おはよう」「さようなら」「失礼します」「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」などです。

あいさつの言葉にはある共通点があります。それが何か分かりますか？

答えは、あいさつはすべて相手に伝える言葉だということ。「そこにあなたがいることを知っています。あなたを認めています。」と相手に伝えているということです。気持ちの良いあいさつをされて元気になったり、嬉しくなったりした経験が皆様にもあるのではないのでしょうか。あいさつの言葉は自分が思っている以上に周りに影響を与えているのです。

あいさつは人と人をつなぐ大切な言葉です。子供たちの元気なあいさつが響く、活気溢れる四谷小学校にしていきたいと思えます。今年度、登校時間帯、子供たちから今まで以上に「おはようございます」と明るい声が聞こえてくるようになってきました。少しずつ取り組みの成果が出ていることに手応えを感じています。

ところで、『♪あいさつは 魔法の言葉 ♪』という歌があるのをご存知ですか。心を元気にしてくれる歌です。全校で歌う機会を設けていきたいと思えます。

「あいさつキラリ！1年生」

1年1組 担任

「おはようございます！」

毎朝、元気なあいさつが聞こえます。

入学して間もない4月は、毎日新しいことを学び慣れない環境に緊張し、とても静かな教室でした。最近、学校生活にも少しずつ慣れ、子供たちの一人一人が本来の元気な姿を見せてくれるようになりました。

友達と外で元気よく遊んだあとは、気持ちを切り替えて学習に集中する立派な姿も見られるようになりました。そんな1年1組ですが、一番輝いているのが「気持ちのよいあいさつ」です。

「ありがとうございます。」「ごめんなさい。」など相手が教師であっても友達であっても素直に伝えることができます。

あいさつは、人の心と心を繋ぐ大切なものです。元気なあいさつができる子供たちのよさを伸ばし、「あかるく」「いつも」「さきに」「つづける」心のこもったあいさつを目指していきます。

高学年スタート

5年1組 担任

新学期が始まって1か月。5年生3学級94名でスタートしました。四谷小の中で最も人数の多い5年生が、全員の力を結集して6年生と共に四谷小をリードしていくんだ、という意気込みをもって新学期を迎えました。

新しく始まった委員会活動では、進んで書記に立候補し、皆のために美しい文字で記録しようと心がける姿や、6年生と協力し責任をもって取り組もうとする姿が色々な場面で見られています。

また、学級目標を考える場面では、「下級生のお手本になるクラス」や「進んで人の役に立つことをやってくれる人が多いクラス」など高学年らしい目標を掲げる子供たちの姿も見られました。

これから始まる様々な行事、学習、生活の中でこのような子供たちの思いや理想を受け止め、充実感や達成感をもたせつつ、よい方向に伸ばしていけるよう、担任としても精一杯努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

おしゃべりな図工～対話型鑑賞～

図工専科

毎年、美術鑑賞教室では6年生が西新宿にある損保ジャパン東郷青児美術館に出かけています。あのゴッホの「ひまわり」も収蔵されている美術館です。

美術鑑賞というと堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、授業では対話型鑑賞法を取り入れています。作品の中に見えたことや感じたことをグループの友達とおしゃべりし合うことで鑑賞を深めていくという方法です。作家や作品に関する知識や技術・技法といった情報を覚えるための鑑賞ではなく、またそうした情報に縛られることなく、あくまでも鑑賞の主体者である子供一人一人の見方や感じ方を大切に作品への理解を深めていきます。作品の中で起こっていることを自分なりに想像したり、お気に入りの作品を見つけたりするなかで、対話を通してお互いの考えや価値観を知り、それぞれの独自性を認め合う経験を積み重ねていきたいです。

